

## 令和6年度ノリ養殖概況

池田博明・中力健治\*

**養殖環境** 漁期中の岡山市における月別降水量の推移を図1に示した。降水量は、10月、11月および3月に前線や低気圧等の影響で雨の日が多く、平年値より多かった一方、12月から2月にかけての降水量は、高気圧に覆われた日が多く、平年値より少なかった。

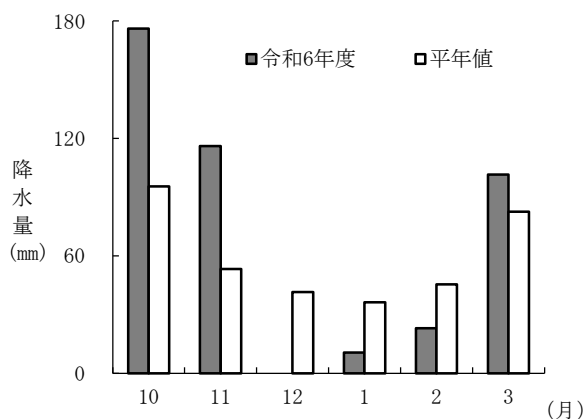


図1 令和6年度漁期月別降水量の推移  
(岡山地方気象台)

牛窓沖水深2m層における日平均水温の推移を図2に示した。水温は11月2日に育苗開始の日安となる23℃を下回り、11月21日に本張り開始の日安となる20℃を下回った。10月から12月中旬までの水温は平年を上回る日が多く、特に10月中旬と11月中旬には平年値を2.0℃以上上回る日も見られた。2月中旬の寒波により、水温が大きく低下し平年値を下回った後は、3月中旬まで平年値を下回る日が続いた。

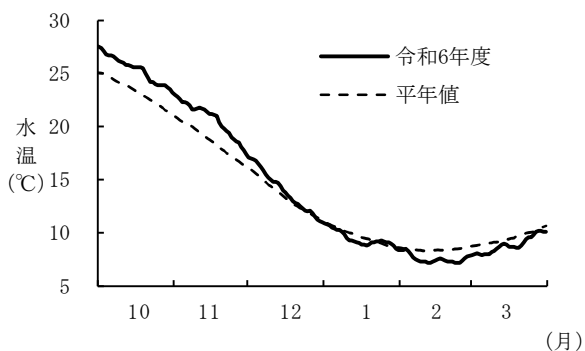


図2 令和6年度漁期牛窓沖水温の推移

漁期中のノリ養殖漁場における溶存態無機窒素(DIN)濃度の推移を図3に示した。DIN濃度は、10月中旬の2μM程度から11月上旬の12μM程度まで大きく上昇したが、その後は低下し、12月下旬に3μM以下となった。2月上旬以降、DIN濃度は1μM以下で推移したが、3月上旬には降雨により3μMを超えた。近年、秋に発生していた大型珪藻 *Coscinodiscus* 属の大規模な増殖は見られなかった。

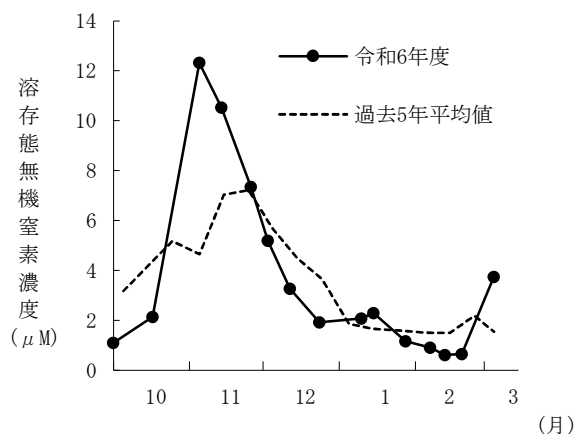


図3 令和6年度漁期溶存態無機窒素濃度の推移

**養殖経過** 漁期中のノリ養殖状況について、漁業者に聞き取り調査を行った。

育苗は、秋期の水温が高い状態が続いた影響で、多くの者が11月4日から6日と例年よりも遅い開始になった。なお、育苗中に大きな芽落ち等の発生はなく、全体的に順調に経過した。

本張りは11月27日、28日を中心に開始された。クロダイの食害対策である防護網の導入が進み、順調に葉体が伸長した網があった一方で、無対策の網では、食害が原因と思われる食痕と葉体の短縮化が確認され、伸長待ちを余儀なくされた。

生産は12月11日以後に本格的に開始された。年内の製品には穴あきや破れが多く発生したのに加え、DIN濃度の低下による色調低下も確認された。1月に入って水温が低下し、食害が収まってきた影響で生産枚数が増え始めたものの、2月になってからは水温が平年を下回った状態が続いたため、葉体の伸びが悪くな

\* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課

った。しかし、他産地の不漁による単価高騰のため、漁期終盤まで生産者の意欲は高く、3月に入ってから定期的な降雨があり、製品の色調が回復したこともあり、多くの地区で漁期終了となる3月下旬まで生産が継続された。

漁期を通じて大規模な病害の発生やまん延はなかったものの、漁期後半のタビュラリア等の珪藻類の付着

により製品の品質が低下したものが一部確認された。

**生産結果** 食害対策の普及、単価高騰、降雨による栄養塩濃度の上昇等により、3月下旬まで生産が続いた結果、生産枚数は前年を上回る約1.97億枚（前年比111%）となった。平均単価は22.41円（前年差+5.84円）と過去10年で最高となり、生産金額は44.2億円（前年比173%）となった。

---

\* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課